こんにちは！ ぼく、あっぷちゃん。
このコーナーでは、全国の園のSDGsに
つながる取り組みを紹介するよ！
今回は、雨水や地下水の活用に
取り組んでいる東京ゆりかご幼稚園。
園長の内野彰裕さんにお話を聞いたよ！

Let's SDGs！
持続可能な保育

水とともにある保育❶
雨水がもたらす恵み

今回の取り組みにかかわる
SDGsの主なゴール

6 安全な水とトイレを世界中に

12 つくる責任 つかう責任

あっぷ 雨水はどうやって貯めているの？

内野彰裕さん 園庭に面した各クラスの保育室の前に1台ずつタンクを設置して、屋根を伝って落ちてくる雨水を貯めています。タンクは最大で300リットル貯まる大きさで、蛇口も付けています。子どもたちはこの水を使って、各クラスに設置している小さな花壇に水をあげたり、水槽の水替えをしたり、いつでも気軽に水あそびを始めたりすることができます。暑いときは、子ども自らひしゃくを持ち、保育室前の園庭に打ち水をする様子も見られますよ。

雨水を通して学ぶこと

あっぷ 雨水を貯めているのはなぜ？

内野さん 生活の中で雨水を日常的に使うことで、子どもたちはさまざまなことを少しずつ理解するようになります。手を洗ったりするための水道水と雨水との違いや、魚などの生物を育てるには雨水の方がふさわしいこと、雨の水が貯まるとたくさんの水量になることなど……。

園庭には田んぼや畑、ビオトープもあり、園にとって水は欠かせません。これらには地下水を使っていますが、地下水にだって限りがあります。雨水を使う工夫を実践することで、天からの恵みである水のありがたさが自然に子どもたちに伝わってほしいと思います。

あっぷ 園児もきっと、雨が降ると「うれしい」と思うんじゃないかな。

東京ゆりかご幼稚園
［東京都］
自然あふれる環境で里山保育に取り組む。園庭には池や小川、築山、田んぼ、畑があり、ヤギを飼い、ムササビの観察・保護なども行っている。

保育室の前にある小さな花壇の脇に、雨水タンクを設置。園舎の屋根からつないだ管を通って、木枠で囲ったタンクに貯まるシステムだ。

タンクには蛇口が付いていて、子どもたちが気軽に利用している。一方、飲み水としては使えないことも理解している。

タンクの中には300リットルの雨水が貯まる。夏はボウフラがわきやすいので、メダカを入れてボウフラを食べてもらうことも。

今月の一句

雨水が　守るよ暮らし　命の輪

自然の恵みに感謝して

内野さん　幼児期の子どもたちには、「水には限りがある」などと科学的な説明をするよりも、山の神様、水の神様など、日本古来の森羅万象、八百万神（やおよろずのかみ）への畏敬の念を伝える方が、自然のありがたさが伝わると感じます。

例えば5歳児クラスでは毎年稲作を行いますが、収穫後は田んぼの神様にお礼をします。これは、稲作に必要な水や土、太陽のおかげでおいしいお米ができたことへの感謝の気持ちを伝えるという意味があります。空から落ちてくる雨も、大きな自然の営みや循環の一部。人間もその循環の中で恵みをいただき生かされているのだということを、子どもとともに実感していきたいですね。

こんにちは！ ぼく、あっぷちゃん。
このコーナーでは、全国の園のSDGsにつながる取り組みを紹介するよ！
前回に引き続き、地下水の活用に取り組んでいる東京ゆりかご幼稚園の園長・内野彰裕さんにお話を聞いたよ！

Let's SDGs！
持続可能な保育

水とともにある保育❷
地下水が育む水への意識

今回の取り組みにかかわるSDGsの主なゴール

- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 12 つくる責任 つかう責任
- 15 陸の豊かさも守ろう

内野彰裕さん うちの園では田んぼで米を作るため、水が必要。でも園は山の高台にあり、上から流れてくる水がなかったため、地下水を掘ることにしました。最初は20メートル程度の浅井戸を掘りましたが、水量が足りず、鉄分も出てきたため、120メートルの深井戸を掘りました。

子どもたちは、自分たちが歩いている地面の下、ずっとずっと深いところに水が流れていることを知ると驚きます。やがて、砂場での水あそびの経験なども重なり、雨、川、池、湖などの水が地面を浸透して地下水となることを徐々に理解していきます。

あそびや生活にいつも寄り添う地下水

あっぷ 地下水をどんなふうに使っているの？

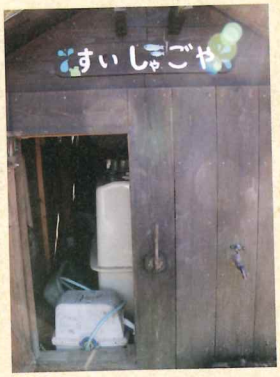
内野さん 田んぼのほか、ビオトープや園庭を流れる100メートルの小川などに利用しています。子どもたちは、小川では、生き物を探したり、バケツで砂あそび用の水をくみ上げたり、石を運んで水をせき止めてダムあそびをしたり、小川の中を歩いて探検ごっこをしたりと、多様な水あそびを楽しみます。

一方、ビオトープでのヘドロ取りや、田んぼでの稲作、畑の水まきなど、さまざまな生活体験を通して、少しずつ水のありがたさも理解していきます。

水の大切さを体感

内野さん 小川や池、田んぼの下に、

東京ゆりかご幼稚園
［東京都］
自然あふれる環境で里山保育に取り組む。園庭には池や小川、築山、田んぼ、畑があり、ヤギを飼い、ムササビの観察・保護なども行っている。



(写真左) 地下水を使っているので、コケも生えてくる。水車についたコケを子どもたちに見せる内野さん。
(写真右) 水車小屋の中には、水をくみ上げるポンプとタンクが。電力の大部分は、太陽光発電によってまかなわれている。くみ上げた水は非常時の備蓄用にも使われる。

池には、イモリやメダカ、カエル、ドジョウ、カワニナなどが棲み、小川までやってくることも。生き物探しや水あそびに夢中になる子どもたちの姿が季節を問わず見られる。

今月の一句

生き物も 地下水で あそびも育つよ

防水シートは敷いていません。地下水や雨は、地面に浸透しながら小川へと流れ込み海へ向かい、その過程で生き物の営みを豊かに支えます。海と合流した後は水蒸気となって雲に蓄えられ、恵みの雨として私たちの上にまた降り注ぎます。こうした自然のサイクルに則って、くみ上げた水も地下水脈に戻るよう、水の循環システムを意識しています。

あっぷ 水道水よりもたくさんのことを教えてくれるんだね。

内野さん 蛇口から当たり前のように出てくる水道水では、どうしても水のありがたみは感じにくいですよね。子どもたちが水の循環を生活の中で感じながら地下水を利用することで、水と大きなつながりがある木や森、土、雲、雨などにも目を向け、大きな自然の枠組みの中での水の大切さを体感できるのではないでしょうか。